

吉浦義彦（よしひこ） 京教哲學者。明治二十七年十月十二日鹿児島縣大島郡龜津村生れ、昭和二十年十月二十三日歿（九四一四五）。第一高等學校を経て、昭和二年東京帝國大學文藝部倫理學科卒。在學中岩下壯一の感化でプロテスタントからカトリックに改宗、二年受洗。フランス留學二年餘、ジャック・マリタンの學ぶ。歸朝後、上智大學、東京公教神學学校で哲學を講じ、十年東京帝大文藝部講師となる。

著書 『文學と倫理―附充足のヒューマンイズムの問題』（昭和十二年四月十七日十字堂書房）、『詩と愛と實存』（昭和十五年十月六日河出書房）、『哲學者の神』（昭和二十二年七月二十日みず書房）、『吉浦義彦著作集』（第一卷『文化と宗教の理念』昭和二十二年十一月十五日、第二卷『中世精神史研究（京教哲學論集第一）』昭和二十三年八月十日みず書房）等の他、譯書にカール・アダム著『カトリシズムの本質』（昭和七年七月一日岩波書店）、ジャック・マリタン著『形而上學の論』（昭和十七年十一月十日甲爲書林「甲爲學書」）、同『宗教と文化』（昭和十九年四月二十日甲爲書林「現代カトリック文藝叢書」）等がある。

